新潟県愛鳥センター紫雲寺さえずりの里

シジュウカラ第83号

§　野鳥観察の魅力を発信！　愛鳥学習会を開催しました　§

3月6日(日)に新潟県立生涯学習センター大研修室を会場に「愛鳥学習会」を開催しました。今年度から実施の新しい催しでしたが、44 名から参加をいただきました。ありがとうございました。

にいがた野鳥の会よりお招きした出口翔大氏には「鳥のとりこになって～私と鳥どっちが好きなの？～」と題して、野鳥観察を始められたきっかけや普段の活動について紹介いただきました。野鳥の魅力を3K「かっこいい」「かわいい」「きれい」の3つで紹介いただき、猛禽類や小鳥の魅力を語っていただきました。また 野鳥観察は健康に良く、お財布に優しく、自然の変化に敏感になれるなど、良いことがたくさんあると紹介いただき、野鳥観察をおすすめしていただきました。

鳥のとりこ!? 出口氏

日本野鳥の会よりお招きした荒哲平氏には「ツバメも少子化の時代？－市民参加の調査から見えてきたツバメの子育て状況－」と題して、野鳥の会の活動紹介とともに、近年実施した全国ツバメ調査について講演いただきました。

調査結果をわかりやすく!荒氏

身近な野鳥として有名なツバメですが、この頃減っているのではないかという話があり、これを調べる調査が実施されたそうです。その結果についてわかりやすく紹介いただき、郊外に比べて都心部ではヒナの数が少なくなっていることを紹介いただきました。繁殖の失敗の要因として、カラスなどの天敵に襲われてしまったことの他に、人が巣を撤去してしまうケースが少なくなかったことを解説されました。このように人とツバメの関係が薄れているなか、ツバメを守るためにできることとして、巣を移動したり、糞を避けるためのグッズやテクニックを紹介いただきました。

講演後にはお二人に「新潟の鳥のイメージは？」といったテーマについて語っていただきました。

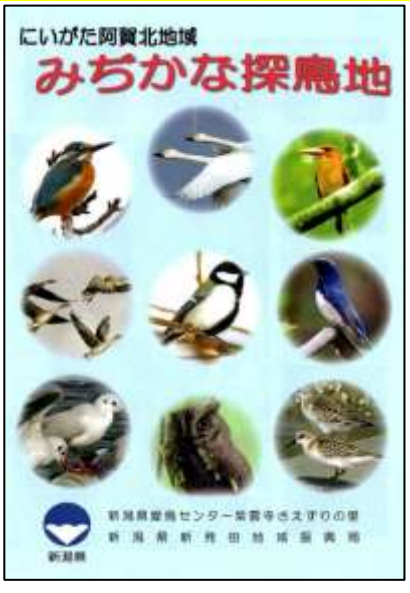
講演者トークでは苦手な野鳥?を暴露！

§「にいがた阿賀北地域身近な探鳥地」を作成しました！　§

阿賀北地域は豊かな自然に恵まれ、普段気軽に訪れている観光地や身近な所にも、野鳥をはじめとする様々な自然観察のできる場所が数多くあります。

この冊子は気軽に立ち寄れる 11 箇所の探鳥地を紹介しています。それぞれの探鳥地へ是非足を運んでみてください。

【プレゼント情報】この冊子を持参して愛鳥センターへお越しの方には窓口で下記の野鳥のポストカードをプレゼントします。
(先着順で、なくなり次第終了となります。)
※この冊子は愛鳥センターだけでなく、新発田市周辺の観光協会にも配布しています。



§　よろしくお願いします　§　所長　大澤　満

このたび、ご縁があり「愛鳥センター紫雲寺さえずりの里」に着任いたしました。今までは、と畜検査や食品衛生、環境衛生、狂犬病予防、家畜衛生などの業務に携わってきましたので、当センターの業務は、衛生環境課時代に一部を垣間見ただけであまり馴染みがありません。今後は皆様方からのご協力をいただき、前任者から引き継いだ業務をこなし、末永く当センターが県民の皆様の研修や憩いの場としてご利用いただけるようにがんばっていきたいと思っていますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

また、私と一緒に着任した職員を紹介いたします。救護係の「岡崎嘱託員」です。野鳥の世話などをしてくれますので私共々よろしくお願いします。

さて、当センターも平成２年の開館から既に四半世紀が経ち、あちこち補修の必要な箇所が散見され、現在少しずつ手を入れているところです。これから少しずつ変わっていく愛鳥センターに是非足を運んでいただきますようお願い申し上げます。

当センターは公園内のとても静かな場所にあるので、毎日鳥の声が聞こえてきますが、残念ながら私の知っている鳥の種類が少なく、日々勉強しています。そして探鳥路を歩くと様々な植物も目に入りますので、季節の移ろいとともに目に留まるであろう咲く花や出現するキノコや動物にも期待しています。

この機関誌の名前がシジュウカラということで、ゆるキャラをいくつか作りました。いかがでしょうか？

40から♂　60から♂　20KARA♀　ホクロウ

§　新潟県野鳥保護の集い（瓢湖）　§

２月 14 日(日)に阿賀野市の瓢湖で「新潟県野鳥保護の集い」を開催しました。81 名の方に参加いただきました。

探鳥会

給餌桟橋付近にはオナガガモやヒドリガモなどが集まり、数百の群れを観察することができました。遠くの水面にはミコアイサなどの群れも確認でき、何種類ものカモたちを比べながら観察することができました。その他にはセグロカモメやカワウなどの水鳥も見られました。猛禽類ではオオタカやチュウヒなどが観察されました。また、愛鳥モデル校の水原小学校から児童と父兄の方が 20 名参加されました。

野鳥保護の集い

平成27年度野鳥写真展表彰式には11名の方にご出席いただきました。また、会場には入賞作品全 17 点を展示し、多くの参加者からご覧いただきました。探鳥会の結果整理は、新潟県野鳥愛護会の山田清副会長にお願いしました。例年 30 種類以上観察されているところ、今年度は少なく 28 種類でした。引き続き、山田副会長に県が例年愛護会に委託しているカモ科鳥類生息状況調査について平成 27 年度分を報告いただきました。１月に調査が実施され、会場でもある瓢湖ではハクチョウ類の数が昨年の倍以上となる約 5,000 羽が記録され、県内全体でも 1.5 倍程となる約 16,000 羽が記録されたことなどを報告いただきました。

休憩をはさんで、日本野鳥の会新潟県の曽我茂樹氏に「上越の野鳥」と題して、上越地域で観察されている野鳥の数々を紹介いただきました。はじめに上越市と妙高市、糸魚川市の自然環境について、河川や湖沼、海、高山帯を含めた山地といった様々な自然に恵まれた地域であることを紹介いただきました。山の鳥ではキビタキやキクイタダキなどを鮮明な生態写真を使いながら紹介いただき、特にノジコは上越の自然を象徴する野鳥であるということなどに触れ、秋にはタカの渡りも観察されることも解説いただきました。海の鳥では、能生漁港や直江津港などの探鳥地を紹介いただき、たくさんのカモメやカイツブリの仲間が観察できることがわかりました。河川や平野の鳥では、清流の代名詞カワセミやイカルチドリ、イソシギなどを紹介いただきました。朝日池で見られる野鳥については、冬に見られるマガンやヒシクイといったガン類の素晴らしい写真を見せていただきました。いずれの野鳥も特徴がよくわかる生態写真での紹介で、会場一同感銘する内容でした。

続いて、新潟県野鳥愛護会の千葉晃副会長に各地の冬鳥情報を紹介いただきました。佐渡や寺泊、阿賀町など各地で見られている猛禽類や水鳥の情報を鮮明な生態写真とともに紹介いただき、県内で様々な野鳥が観察できることを確認することができました。

探鳥会の様子

§ 傷病鳥獣の収容状況 §

平成27年度　12月～3月の傷病鳥獣収容結果

収容NO.	種類	11月末収容数	収容数	放鳥獣	譲渡返還	死亡	3月末収容数	収容NO.	種類	11月末収容数	収容数	放鳥獣	譲渡返還	死亡	3月末収容数
（鳥類）									クマタカ	1					1
1	ヤマドリ		1			1	0	26	オオコノハズク		1	1			0
2	キジ		1			1	0	27	フクロウ		2	1		1	0
3	オオヒシクイ		1			1	0	28	コミミズク		1			1	0
4	コハクチョウ	1	24	3		19	3	29	チョウゲンボウ		2	1			1
5	オオハクチョウ	1	6			4	3	30	コチョウゲンボウ		1			1	0
6	マガモ	1	1			1	1		ハシボソガラス	1					1
7	カルガモ	1	2			2	1	31	ヤマガラ		1	1			0
8	コガモ		2			2	0	32	シジュウカラ		2			2	0
9	ホシハジロ		1	1			0	33	ヒヨドリ		3	1		2	0
10	キンクロハジロ		1			1	0	34	メジロ		1			1	0
11	スズガモ		1			1	0	35	ミソサザイ		1			1	0
12	カイツブリ		1	1			0	36	ムクドリ		2			2	0
13	カンムリカイツブリ		1			1	0	37	トラツグミ		1			1	0
14	ハジロカイツブリ		2	1		1	0	38	クロツグミ		1				1
15	キジバト	2	3	1		4	0	39	シロハラ		3	2		1	0
16	ウミウ		1			1	0	40	ツグミ		3	1		2	0
	アマサギ	1				1	0	41	スズメ		3	1		2	0
17	アオサギ		2			2	0	42	ハクセキレイ		1	1			0
	ダイサギ	1					1	43	セグロセキレイ		1			1	0
18	ヤマシギ		3			3	0	44	アトリ		1			1	0
19	タシギ		1	1			0	45	マヒワ		2	1		1	0
20	ミツユビカモメ		1			1	0	46	シメ		2	1		1	0
	ウミネコ	1				1	0	47	ミヤマホオジロ		1	1			0
	セグロカモメ	1					1	48	ドバト		3	1		2	0
21	オオセグロカモメ	1	1			1	1	小計		17	105	26	0	77	19
22	ミサゴ		1	1			0	（獣類）							
23	トビ	3	3	2		1	3								0
24	オオタカ		1			1	0	小計		0	0	0	0	0	0
25	ノスリ	1	4	1		3	1	合計		17	105	26	0	77	19

平成27年12月1日～平成28年3月31日までの収容数は、鳥類48種105羽、獣類0種0頭で、昨年度の同時期（鳥類73羽、獣類1頭）と比べ鳥類は増加した。

＜その他＞

・　ミヤマホオジロ　4例目（平成5、15、21年）

◆身近な野鳥データ◆

子育てデータ

鳥の名前	卵を産む月	巣の場所	卵の数	卵を温める日数	卵からかえって巣立つまでの日数	巣の特徴
カルガモ	4～7月	草地などの地上	10～12個	約26日	約60日	枯れ草が材料のおわん型の巣
キジバト	2～11月	木の上	2個	15～16日	約15日	枯れ枝を組み合わせて作った皿形の巣
シジュウカラ	4～7月	木の穴、建物の隙間	7～10個	13～14日	16～22日	木の穴や巣箱にコケなどを入れて作る
スズメ	3～8月	木の穴、建物の隙間	5～6個	約12日	約14日	建物のすき間に枯れ草を入れて作る
ツバメ	4～7月	建物の壁	4～6個	14～16日	17～24日	泥と枯れ草を混ぜて作る
ハシブトガラス	3～7月	木の上	4～5個	約20日	約30日	太さが大小の枯れ枝を組み合わせて作る
ヒヨドリ	5～7月	木の上	3～5個	13～14日	10～11日	ツタや笹の葉が材料のおわん型の巣
ムクドリ	4～7月	木の穴、建物の隙間	4～7個	11～13日	約21日	枯れ草の茎や羽を敷いて作る

日本野鳥の会「ヒナを拾わないで」参考

§12～3月の探鳥会・観察会§

12/13（日）五十公野公園探鳥会　8:00～10:00　（曇り）
場所：五十公野公園　参加者：30名　観察種：37種【①】

升潟には2000～2500羽程のカモたちが休んでおり、コハクチョウも20羽ほど残っていました。あやめ園まで行くと水路でカワセミが現れ、何度か水に飛び込む様子を見せてくれ、しばらく観察することができました。周囲の林では木の高いところにシジュウカラやヒガラ、コガラが見られ、地表近くにはアオジやミソサザイが鳴いていました。

あやめ園でカワセミが見られました

事前学習で標本を観察！

1/10（日）足跡ウォッチング　9:30～11:10　（雨）
場所：愛鳥センター探鳥路　参加者：7名
観察鳥種：10種【②】

最初に講師の高橋氏より、冬芽などの標本を解説いただき、探鳥路へ出発しました。雪が積もっておらず、足跡を見つけることはできませんでしたが、見通しのよくなった林で冬芽や木の実を観察し、野鳥などを探しました。1時間ほど散策し、シロハラ、ツグミ、カシラダカなどの冬鳥やコブシ、ミズナラなどの冬芽を観察することができました。

観察したもの：冬芽（コブシ、ガマズミ、コナラ、ミズナラ、アカメガシワ、ヌルデ、ウワミズザクラ、ハクウンボク、ハリエンジュ、クリ、スギ、アカマツ、タラノキなど）、オオカマキリの卵、イラガの繭、モグラ塚など

1/31（日）海鳥を見る会　8:00～10:00　（曇り）
場所：網代浜漁港～東港　参加者：10名　観察種：28種【③】

例年の1月末にしては穏やかなお天気の中、講師の伊藤氏を先頭に、「海のにぎわい館」から港へ向かいました。船着場付近ではカルガモやコガモ、オカヨシガモがのんびりプカプカ浮いていました。ヒメウも嬉しいお出迎え。マガモの大群やスズガモ、カンムリカイツブリ、小さくてかわいいハジロカイツブリも見ることができました。カモメ類は少なめでしたが、4種類ほど確認できました。帰路、冬の港で見かけるのはちょっと珍しいヒバリにも出会いました。

港内にはカモがたくさんいました

飛び立って行くコハクチョウたち

3/13（日）ハクチョウを見送る会　8:00～10:00　（快晴）

場所：お幕場大池　参加者：17名　観察種35種【④】

天候に恵まれ、池から飛び立つハクチョウを見送りながら探鳥会を始めました。開始早々、上空を緩やかなV字ラインを描きながら70～80羽のハクチョウの群れが飛んでいきました。大池ではオナガガモやユリカモメ、カモメを間近で観察することができました。ホオジロのさえずりを聞きながら松林に進んでいくと、ヤマガラやアオゲラなどを見ることができました。最後に青空の中をゆったりと飛ぶオオタカと、ペアで池に着水したオシドリを観察することができました。

探鳥会の観察種

No	種名	①	②	③	④
1	コハクチョウ	●			●
2	オオハクチョウ				●
3	オシドリ				●
4	オカヨシガモ			●	
5	ヨシガモ			●	
6	ヒドリガモ	●		●	●
7	マガモ	●		●	●
8	カルガモ	●		●	
9	ハシビロガモ	●			●
10	オナガガモ	●		●	●
11	トモエガモ	●			
12	コガモ	●		●	●
13	ホシハジロ	●			●
14	キンクロハジロ	●			●
15	スズガモ			●	
16	ミコアイサ	●			
17	カイツブリ	●			
18	カンムリカイツブリ			●	
19	ハジロカイツブリ			●	
20	ヒメウ			●	
21	カワウ	●			

No	種名	①	②	③	④
22	ウミウ			●	
23	アオサギ			●	●
24	ダイサギ		●		
25	コサギ			●	
26	オオバン	●			
27	ユリカモメ			●	●
28	ウミネコ			●	
29	カモメ				●
30	セグロカモメ			●	
31	オオセグロカモメ			●	
32	ミサゴ				●
33	トビ	●		●	●
34	オオタカ				●
35	ノスリ			●	●
36	カワセミ	●			
37	コゲラ	●	●		●
38	アカゲラ	●	●		●
39	アオゲラ	●			●
40	カケス				●
41	ミヤマガラス	●			●
42	ハシボソガラス	●		●	●

No	種名	①	②	③	④
43	ハシブトガラス	●	●	●	●
44	キクイタダキ	●			●
45	コガラ	●			
46	ヤマガラ				●
47	ヒガラ	●			●
48	シジュウカラ	●	●		●
49	ヒバリ			●	
50	ヒヨドリ	●	●		●
51	メジロ	●			
52	ミソサザイ	●			
53	シロハラ	●	●		
54	ツグミ	●	●	●	
55	イソヒヨドリ			●	
56	スズメ	●		●	●
57	ハクセキレイ	●		●	●
58	セグロセキレイ	●			
59	カワラヒワ	●			●
60	ウソ				●
61	ホオジロ				●
62	カシラダカ	●	●		●
63	アオジ	●	●		
	合計	37	10	28	35

～愛鳥ブログより～

ただ今、愛鳥センターのホームページではブログを掲載中です。
公園の野鳥や自然にまつわることなど日々の情報をお知らせしています。
ここでは冬の記事の一部を紹介します！

2016年1月12日

愛鳥センター周辺にも雪が積もり始めました。朝、飼育舎のフェンスにはミヤマホオジロの♂が止まっていましたが、けっこう近くまで寄っても逃げませんでした。雪が降っていると、鳥たちは少し警戒心が薄まるのでしょうか。こんな天気のときこそ、暖かい格好をして出掛けると、意外に鳥を観察するチャンスかもしれませんね！

フェンスに止まるミヤマホオジロ

2016年3月11日

探鳥路でオオアカゲラを見つけました。愛鳥センター周辺では、ここ10年で初確認です。山地の林で見られることが多いので、平地では珍しいかもしれません。

珍しいお客さま、オオアカゲラ

§　平成27年度野鳥写真展　§

平成27年度野鳥写真展は53名の方から209点の応募がありました。前年に比べて、応募作品数は48点多く出品されました。

金賞を受賞した安野邦夫氏の作品は、「群れの和んだ様子が良く撮れている作品。中央のトキの姿勢がまわりのものと違っている点や、一緒に写っているコサギのアクセントも良い。また、背景の田んぼとの色調とバランスが素晴らしい。」と高く評価されました。また、全体的な評価として、「鳥の習性をよく理解して撮影に臨んでいる。特に動きのある、飛翔しているものなどを捉える技術が素晴らしい作品が多くあった」とのことでした。

金賞：安野 邦夫 氏「何か違うなー（トキ、コサギ）」

銀賞：佐藤 哲夫 氏

銀賞：渡辺 武男 氏

平成27年度野鳥写真展入賞者一覧

賞	タイトル【鳥名】	氏　名	撮影場所(時期)
金賞	何か違うなー（トキ、コサギ）	安野　邦夫	佐渡(7月)
銀賞	春の舞（エナガ）	佐藤　哲夫	南蒲原(4月)
	ラブラブ（カンムリカイツブリ）	渡辺　武男	西蒲・新潟(4月)
銅賞	ケリ	阿部　繁	中蒲原(6月)
	バンの親子	金子　俊彦	中頸城(6月)
	ヒレンジャク	桜井　和宏	北蒲(2月)
特別賞	オジロビタキ	山崎　勝明	西蒲・新潟(11月)
佳作	ヨシゴイ親子	山崎　悦子	北蒲(9月)
	コシアカツバメ	関根　茂友	北蒲(9月)
	水あび（カケス）	阿達　清	北蒲(9月)
	勇姿（ハヤブサ）	井川　康徳	西蒲・新潟(2月)
	やっと捕れたよ（マガモ）	中村　豊美子	西蒲・新潟(12月)
	ヘラサギ	田辺　昭三	西蒲・新潟(12月)
	春うらら（ノビタキ）	酒井　邦夫	西蒲・新潟(4月)
	でかすぎる（カワウ）	安野　恵津子	北蒲(3月)
	アオゲラ♀	小沢　栄一	西蒲・新潟(3月)
	ひと休み(オシドリ)	渡辺　昭子	佐渡(12月)

◆　12～3月の来館者数

月	12月	1月	2月	3月	計	累計
来館者数	279	128	282	596	1,285	11,547

館内設置のトキ募金箱の報告

平成28年1月～平成28年4月　**4，０００円**

累計**２６０，０６９円**

みなさまの暖かい善意に深く感謝いたします。

今後ともご協力をお願いいたします。

新潟県愛鳥センター紫雲寺さえずりの里

開館時間：午前9時～午後4時

休 館 日：毎週月曜日（祝日の場合は翌平日）

〒957-0231 新発田市藤塚浜海老池

Tel 0254-41-4500／Fax 0254-41-4501

HP：http://www.pref.niigata.lg.jp/aicho/

E-mail：ngt035310@pref.niigata.lg.jp

９月までの行事予定

探鳥会《参加費、申込み不要です。現地集合･解散となります。双眼鏡や図鑑の貸出しがあります。》

三光鳥を聞く会（剣龍峡集合）

6/ 5（日）　6:30～9:00

紫雲寺記念公園探鳥会（愛鳥センター集合）

6/26（日）　9:00～10:30　　定員20名

※この探鳥会は申込みが必要です。

紫雲寺記念公園グループ　0254-41-3740

シギ・チドリ観察会（海のにぎわい館集合）

8/28（日）9:00～11:00

タカの渡りを見る会（剣龍峡集合）

9/25（日）10:00～12:00

観察会ほか

工作教室（愛鳥センター集合）

7/31（日）　13:30～15:30　　定員20名

※7/24（日）までに愛鳥センターへ

お申込みください。

巣箱作り教室（愛鳥センター集合）

8/21（日）　13:30～16:00　　定員8組

※8/14（日）までに愛鳥センターへ

お申込みください。

マツムシの声を楽しむ会（愛鳥センター集合）

9/ 3（土）　18:00～20:00

特別展

夏休み特別展（愛鳥センター2階）

7/ 9（土）～ 9/19（月・祝）

愛鳥ポスター展（愛鳥センター2階）

9/24（土）～10/23（日）